令和７年度　前後期　自己評価書

篠山小中学校組合立篠山小中学校

【評価基準】　A：目標を達成　　B：８割以上達成　　C：６割以上達成　　D：６割未満

1　特色ある学校づくり

評価項目	評価指標及び目標値	評価	学校による考察（◇）　改善方策（◆）	評価資料	個別評価	肯定率 4＋3	アンケート結果（%） 4	3	2	1
小中一貫教育を目指した教育の推進	組合立学校、小中合同校舎等の特色を生かし、「9年間で育つ篠南の子」を意識した教育活動を推進している。 目標値：教職員、保護者、地域の約90%が肯定	A	◇小中合同の校舎の良さを生かし、全校給食の実施や合同俳句集会、ふるさと学習など、多様な活動内容や形態を考慮しながら、小中間の交流の場を設定している。また、稲作を中心とした勤労生産的活動等も、児童生徒だけでなく教職員間で細かく共通理解を図りながら、合同で計画・実施していることが高評価につながっている。 ◆現在の体制を継続しつつ、児童生徒の発達段階に合わせながら、9年間を見通した教育の推進に努めていく。今後も、運動会や文化祭など、小中合同の学校行事や活動を、ホームページや各種たよりで積極的に広報することで、地域や保護者に周知させていく。	教職員1	A	100%	57%	43%	0%	0%
				保護者1	A	100%	22%	78%	0%	0%
				地域1	A	100%	67%	33%	0%	0%
		A	◇最後となった運動会や文化祭など、小学生と中学生9名が力を合わせて素晴らしい行事にすることができた。また2学期も全校給食、合同俳句集会、ふるさと学習などを継続して行い、小学校と中学校が連携した取組をすることができた。 ◆3学期も現在の取組を継続し、9年間を見通した教育の推進に努めていく。今後も小中合同の学校行事や活動を、ホームページや各種たよりで積極的に情報発信し、地域や保護者に周知していく。	教職員1	A	100%	80%	20%	0%	0%
				保護者1	A	100%	22%	78%	0%	0%
				地域1	A	100%	89%	11%	0%	0%
ふるさと教育	地域の人材や教育資源を活用するなど、地域の教育力を取り入れた取組を計画・推進している。 目標値：教職員、児童生徒、保護者、地域の約90%が肯定	A	◇児童生徒1名が評価が低かったが、全体的には高評価を得ている。学校では、今年度も総合的な学習の時間を中心に、「田植え」やふるさと学習、地域ボランティアなど、地域の人材を活用した活動や地域と共に取り組む活動を推進している。また、活動の際には地域コーディネーターを積極的に活用し、地域人材と交流する機会を増やしたり、地域の教育力を取り入れたりすることで評価が高まったと考えている。 ◆これからも運動会や文化祭など、学校行事には積極的に地域の人材を活用し、小中の連携を図りながらより効果的な学習活動になるように進めていく。また、地域ボランティアへの活動にも幅を広げ、県道花壇整備の活動にも積極的に呼び掛けることで、学校と地域の連携を密にしていく。	教職員2	A	100%	71%	29%	0%	0%
				児童生徒8	A	89%	67%	22%	11%	0%
				保護者2	A	100%	25%	75%	0%	0%
				地域2	A	100%	78%	22%	0%	0%
		A	◇総合的な学習の時間を中心に、稲作活動や県道花壇の整美など、地域に根ざした特色ある活動を推進してきた。また、前期から引き続き、活動の際には地域コーディネーターや学校運営協議会委員、そして高齢者を中心とした地域団体を積極的に活用した。さらには、「福祉学習」や「ふるさと学習」等にも機会の場を広げ、地域の教育力を取り入れた取組をより一層推進することができた。これらの取組から、全体的にも高評価が維持できているのではないかと考える。 ◆全体的には高評価を維持できており、運動会や文化祭等の行事では地域の協力を得ることができた。休校までの3カ月も活動への参加協力の幅を広げ、より積極的に呼び掛けを行うことで、学校と地域、保護者の連携を強固にしていく。	教職員2	A	100%	60%	40%	0%	0%
				児童生徒8	A	100%	56%	44%	0%	0%
				保護者2	A	100%	44%	56%	0%	0%
				地域2	A	100%	89%	11%	0%	0%
家庭・地域との連携	各種たよりやホームページ等で学校の取組や児童生徒の様子を適時に発信している。 目標値：教職員、保護者、地域住民の約90%が肯定	A	◇保護者・地域のいずれもが肯定的にとらえている。ホームページをはじめとして、学校だよりや学級だより、保健だより等、様々な手段で学校の取組を周知しているためと考えられる。教職員については、学級だよりの発行が不十分だったと反省している者がいるため、やや低い評価になっている。 ◆学校だよりを回覧板で見ていただく方法をとっているが、現在、トラブルや相談などの連絡はない。従って、学校の取組の周知については、現行を継続しつつ、より確実に伝わるような手段をさらに講じるように工夫する。ただし、学校からの一方通行の伝達だけでなく、地域の「願いや思い」を把握する機会を増やすことも必要であると考える。	教職員3	B	80%	60%	20%	20%	0%
				保護者14	A	100%	25%	75%	0%	0%
				地域7	A	100%	67%	33%	0%	0%
		A	◇ホームページの更新や各担当からのたより等、学校行事を中心とした全体の取組だけでなく、学年ごとの活動の様子もタイムリーな状態で情報発信することで、家庭・地域への働き掛けができている。それ故、地域、保護者からの評価は高く維持されている。今後もこの情報発信が、家庭・地域との信頼関係を結んでいく1つのツールとして継続する必要がある。 ◆地域住民や保護者からは高評価をいただけているので、現在の体制を継続していく。教職員については、ICT機器を活用した情報発信の仕方や短時間で作成できる方法の研修を重ねていき、より充実した情報発信の体制を整えていく。	教職員3	A	100%	20%	80%	0%	0%
				保護者14	A	100%	33%	67%	0%	0%
				地域7	A	100%	89%	11%	0%	0%

学校運営協議会委員の意見	〇地域の方々との交流（ボランティアの参加）等よくできていると思います。 〇毎日ホームページの更新がされ、情報発信ができていると思います。 〇学校のありよう自体が他校にはない特色を持っていて、それらの特色を生かした学校運営がなされていると思います。 〇地域との連携を進めるうえで、コーディネーターの果たす役割が大きかったのではないでしょうか。 〇全体評価がすべてAだったことは、素晴らしいことだと思います。 〇ふるさと学習においても、地域の人たちがいろいろと協力しているので本当に良い結果で良かったです。	学校の対応	〇毎月、篠ボラを実施していただき本当に心から感謝しています。地域の方々に支えられていることを実感します。 〇ホームページは今後も毎日更新していきます。 〇地域コーディネーターが果たす役割は本当に大きいです。学校と地域の橋渡し役に感謝しています。 〇休校まで残り2カ月になりましたが、篠山の特色を生かした学校運営を行っていきたいと思います。 〇地域、教育委員会と連携し、来年度の閉校に向けて計画的に活動していきたいと思います。

2　確かな学力の定着と向上

基礎学力の定着	小➡児童は、「読み・書き・計算」の基礎学力が身に付いている。 中➡生徒は、基礎的・基本的な知識・技能が身に付いている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の**約85%が肯定**	A	◇教師が少人数の利点を生かし、個に応じた指導や授業の工夫を行うことで、児童も生徒も授業に意欲的に取り組むことができ、基礎学力が身に付いたと評価したと思われる。保護者は、これらの実践を授業参観やテストの成績等から鑑みて、評価した。 ◆教科によっては、苦手意識を持つ児童生徒がいたり、基礎的な内容の理解や定着が困難な児童生徒もいたりする。ICT等を活用して、個に応じた対応を図る。	教職員4	A	**100%**	20%	80%	0%	0%
				児童生徒2,14	A	**100%**	84%	16%	0%	0%
				保護者12	A	**100%**	25%	75%	0%	0%
		A	◇前期とほぼ同様の結果で高評価ではあるが、細かく見ると教職員以外は4の評価が微減している。原因は定かではないが、大きな行事を控えていたことなどが多少なりとも影響を与えていたかもしれない。 ◆3学期も休校・閉校に向けての取組があるが、児童生徒の負担が少なく落ち着いて家庭学習に臨めるように見通しを持った計画を立て、引き続き個に応じた指導を行う。	教職員4	A	**100%**	40%	60%	0%	0%
				児童生徒2,14	A	**100%**	78%	22%	0%	0%
				保護者12	A	**100%**	22%	78%	0%	0%
授業改善 ICTの活用	児童生徒が自分の考えを分かりやすく表現したり、物事を論理的に考えたりする授業を実践している。また、ICT機器を効果的に活用している。 目標値：教職員、児童生徒の**約85%が肯定**	A	◇各教科でデジタル教科書を中心に活用していることから、高い評価を得られている。小学校は、毎週金曜日の朝8:00～8:10までeスタの記事を読んだり、クミハンを使って新聞記事を書いたり、キャンバを使って様々な資料作成をしたりする中で、文章読解力や文章作成に慣れ親しむことを目指している。中学校は、毎週水曜日にEILSで「eスタ」の問題を解いたり、毎週金曜日にドリルパークで5教科の学習をしている。これらのことも、学力向上に役立っていると思われる。 ◆ICT機器の効果的な活用方法について、教員間で情報交換してレベルアップしたい。今後町ICT支援員による研修会を定期的に実施していく予定である。	教職員5	A	**100%**	20%	80%	0%	0%
				児童生徒4,5,9	A	**97%**	25%	72%	3%	0%
		A	◇もともと高評価であったが、前期に比べ教職員・児童生徒ともに4の評価が増えた。ICT機器の活用を含め、小中ともに少人数のよさを生かした指導の継続が実を結び、自信となっていると思われる。 ◆2の評価をしている児童生徒が0になるのは難しいかもしれないが、現在の指導を継続しつつ個に応じた指導のさらなる充実を図る。	教職員5	A	**100%**	80%	20%	0%	0%
				児童生徒4,5,9	A	**96%**	48%	48%	4%	0%
家庭学習の定着	児童生徒は、家庭学習の習慣が身に付いている。(小学校中学年は40分、高学年は60分、中学生は90分以上) 目標値：教職員、児童生徒、保護者の**約85%が肯定**	C	◇保護者の認識と教職員・児童生徒のずれが大きい。学習時間が足りないという判断なのか、言われてから取り組むという状況に対して身に付いてないと判断されたのかが定かではない。小学校は宿題にきちんと取り組めば、家庭学習の目標時間が達成できるように出しているが、丁寧さや正確さは欠けているため目標時間よりも早く終わっている可能性はある。中学校は、多くの生徒は課題をきちんと提出できている。一学期末テストの勉強にも今まで以上に取り組むことができ、実際に成績を伸ばすことができた生徒もいた。そうした生徒のよい変化に喜びを感じている保護者もいる。テニスの練習で疲れている中、睡眠時間を削って宿題に取り組み、きちんと提出する生徒もいる。 ◆自らが家庭学習に取り組む態度で保護者に判断していただくのか、目標時間を達成していることで判断していただくのかを明記して、課題を焦点化していく。小学校では、家庭学習の目標時間に足りない場合の自主学習の仕方について学期初めに時間を取って指導したが、結果は芳しくなかった。目標時間を達成していたからかもしれないが、2学期以降は、自分で自主学習に取り組みやすい曜日を決めさせて習慣化を図りたい。	教職員6	A	**100%**	20%	80%	0%	0%
				児童生徒3	A	**100%**	67%	33%	0%	0%
				保護者4	D	**38%**	0%	38%	63%	0%
		B	◇今期も教職員、児童生徒と保護者の認識のずれが大きい。ただ、細かく見ると保護者の中には、前期にはなかった4評価が0から11%に増え、2の評価が減ってきていることから、多少なりとも成果として評価していただいている。 ◆目標時間を学級で根気強く指導し、団らんの時間などを使って家庭学習に関して話題にしてもらい、各自の実践の可視化を図ることで、認識のずれを改装していく。	教職員6	A	**100%**	40%	60%	0%	0%
				児童生徒3	A	**100%**	56%	44%	0%	0%
				保護者4	D	**44%**	11%	33%	56%	0%

学校運営協議会委員の意見	○小中学生ともに、基礎学力が身についているのは少人数で個別指導ができることの成果だと思います。更に個別指導を徹底して、能力のある子供には発展的な指導を取り入れて、才能を伸ばしてほしいと思います。 ○デジタル教科書については、学力向上に効果があるかどうか分からない面があるので慎重に進めてほしい。 ○少人数の学級ですが、一人一人様々な面で頑張って多くの賞をとっていることは素晴らしいと思います。 ○体育の面では、少人数なので、できることが限られるので先生の苦労があり大変だと思います。 ○家庭学習の定着については、家庭だけの力では難しいので学校と家庭の連携が必要なのではないでしょうか。 ○保護者にとって質問に対して数値化することが難しいのではないかと思います。 ○現在は地元の高校が定員割れしていることから、勉強しないといけないという意識が希薄で、勉強の動機付けが難しいように感じます。	学校の対応	○それぞれの教科で「個に応じた指導」を意識して取り組んでいます。子供はそれぞれ能力が違いますので、御指摘されたようにそれぞれの子供に合った指導をしていきます。 ○アナログとデジタルのベストミックスが大切だと言われています。教師がアナログ、デジタルのそれぞれの良い点を使い分けて指導していきます。 ○子供たちは、勉強も運動もよく頑張っています。ソフトテニスでは県総体団体・個人優勝、四国大会では個人準優勝を果たし、全国大会に出場しました。学習面でも学力を向上させ、希望の進路を実現させたいと思います。 ○児童生徒には、家庭学習の大切さを伝え、自律学習者の育成を目指しています。また、宿題を計画的に出し家庭学習の充実に努めています。今後もこの指導を継続していきたいと思います。 ○ルーブリック指標の提示（○○ができている状態＝4）といった簡易的な指標をアンケートに添えることで、評価のぶれが少なるように改善します。 ○仕事の面白さや厳しさを知る機会を作ります。社会のリアルに触れることで、「これを知らないと将来困る」「もっと学びたい」という内発的な動機付けを刺激していきます。

3　豊かな心と健やかな体を育てる教育の推進

道徳教育の充実	道徳科や特別活動等の授業を通して、自他を思いやる児童生徒が育っている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の**約85%が肯定**	A	◇道徳科でも他教科と同様にめあてを意識した授業を実践したり、中学校ではオンラインで学習したりすることで、主体的・対話的な学びが保障されたことが高評価につながっていると思われる。また、小中合同の活動を含め、すべての教育活動を通して指導してきたことで、互いを思いやる心を育むことができているのではないかと思われる。 ◆保護者の「よくできている」の評価が一番低い一方で、児童生徒の「よくできている」の評価が一番高くなっており矛盾を感じる。児童生徒にとっては、問題意識を持たない言動であっても、保護者が気になっている可能性がある。保護者との連携を深め、タイミングを逃さない指導と児童生徒にしっかりと考えさせる指導の両方を今後も意識して実践していきたい。	教職員7	A	**100%**	80%	20%	0%	0%
				児童生徒7	A	**100%**	89%	11%	0%	0%
				保護者11	A	**100%**	13%	88%	0%	0%
		A	◇前期に引き続き高評価である上に児童生徒全員が4の評価となっている。休校・閉校を前にして小中合同で活動することが多くなり相手を思いやる意識がより高まっていると思われる。 ◆残りの3か月も合同で行う活動が多くあるので、この状態を維持できるよう教職員も共通理解を図り、支援・見守りを行う。	教職員7	A	**100%**	80%	20%	0%	0%
				児童生徒7	A	**100%**	100%	0%	0%	0%
				保護者11	A	**100%**	11%	89%	0%	0%
挨拶・返事運動の推進	気持ちのよい挨拶・返事ができる児童生徒が育っている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者、地域住民の**約90%が肯定**	A	◇児童生徒や保護者、地域住民は、高評価だったが、教職員の中に「まだ十分ではない」と感じている方が2名いた。全体で肯定が9割以上あったため、A評価とした。 ◆その日の気分に左右されて声の大きさが変わる児童生徒にならないように、根気強く指導を継続していく。また、道徳の時間や、部活動等を通して、感謝の気持ちを言葉で伝えることの大切さや人と人とのつながりの第一歩は挨拶であることなどを指導していき、コミュニケーション能力を高めていきたい。	教職員8	B	**80%**	80%	0%	20%	0%
				児童生徒10	A	**100%**	67%	33%	0%	0%
				保護者7	A	**100%**	13%	88%	0%	0%
				地域3	A	**100%**	56%	44%	0%	0%
		A	◇保護者が1名否定的な評価であったが、教職員、児童生徒、地域ともに100%を達成しており、全体的には気持ちの良いあいさつができていると考える。 ◆道徳の時間や、部活動等を通して、感謝の気持ちを言葉で伝えることの大切さや人と人とのつながりの第一歩は挨拶であることなどを引き続き指導していき、コミュニケーション能力を高めていきたい。	教職員8	A	**100%**	60%	40%	0%	0%
				児童生徒10	A	**100%**	78%	22%	0%	0%
				保護者7	A	**89%**	11%	78%	11%	0%
				地域3	A	**100%**	78%	22%	0%	0%
健康な生活習慣の確立	児童生徒は、早寝・早起き・朝ごはんの習慣が身に付いている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の**約85%が肯定**	B	◇児童生徒と教職員は高評価であったが、保護者の中に、早起きの習慣が身に付いていないと感じる方がおられた。生徒児童の結果と保護者との結果とのずれが見られたが、全体の評価としては、B評価とした。 ◆日々の声掛け、家庭との連携を密にし、できない原因や改善方法を個人懇談等で提案している。早寝早起きの習慣は、家庭の協力が必要であるため、「保健だより」を通して、課題や改善の方法を発信し、家庭と連携した取組を行う。	教職員9	A	**100%**	40%	60%	0%	0%
				児童生徒13	A	**89%**	44%	44%	11%	0%
				保護者9	C	**63%**	0%	63%	38%	0%
		B	◇児童生徒と教職員の評価は高かったが、保護者の評価が低かったためB評価とした。しかし、児童生徒の肯定率は100%に向上した。 ◆保護者の評価が低かった要因として考えられることは、児童生徒が主体的に早寝早起き朝ご飯を実践できていないことが考えられる。「なぜ大切か」ということを自分事として理解させ、実行できる環境を家庭と共通理解を図り実践していく。	教職員9	A	**100%**	40%	60%	0%	0%
				児童生徒13	A	**100%**	44%	56%	0%	0%
				保護者9	D	**56%**	0%	56%	44%	0%
体力づくりの推進	教科体育の充実や部活動、課外体育、「えひめITスタジアム」への参加により、体力・運動能力が向上している。 目標値：教職員の**約85%が肯定**	A	◇体を動かすことに抵抗を感じている児童生徒は多少いるが、放課後の水泳練習や部活動に意欲的に取り組めている。小学校では特に、水泳が好きで授業、放課後練習とも目標を持って頑張る姿が見られた。しかし、種目によっては運動を苦手に思う児童生徒もいるので、楽しい活動を心掛けることも重要である。 ◆体育学習で様々な運動に親しませながら運動能力の向上を図る。また、目的意識を持つことや運動の意義などを工夫して知らせ、放課後の水泳・陸上練習や部活動にも積極的に参加させる。自分の好きなことを伸ばすとともに、自己有用感や自己肯定感を育てたい。	教職員10	A	**100%**	40%	60%	0%	0%
		A	◇体を動かすことに抵抗を感じている児童生徒は多少いるが、放課後の陸上練習や業間に行っている運動、部活動に意欲的に取り組めている。また、小中学校ともに、体力を高めたり体幹を鍛えたりする運動を、授業導入時の補助運動として継続して行っている。 ◆体力テストの結果やITスタジアムを活用し、全国や県内の小中学生と比較することで児童生徒の運動に対する自信につなげられるようにする。児童生徒の活躍を褒めたり、できたことを認めたり、励ましたりすることで自己肯定感を高め、自信を持って学校生活を送ることができるように支援していく。	教職員10		**100%**	60%	40%	0%	0%

学校運営協議会委員の意見	○篠山の子供たちはいつ会っても、気持ちの良いあいさつができています。元気をもらっています。ありがとうございます。 ○学校、家庭だけでなく地域との関わりが増える中で、あいさつの大切さや感謝の気持ちが育まれていっていると思います。 ○道徳教育は道徳の時間だけではなく、学校教育全体で行うことを再確認して、子供たちの学校生活の様々な場面で適宜指導していくことを心がけてほしい。 ○テニス部の活躍は本当に素晴らしい。一昔前なら全国大会出場となれば地域をあげて応援したと思うが、少し淋しい。もっと称揚されていいと思います。 ○早寝早起きについては、時間を決めていないことで評価が低くなっているのではないでしょうか。 ○マラソン大会では、体力がないと感じる子供がいました。その子にも体力をつけないといけないと感じました。 ○少人数だと馴合いになりがちですが、行事などを見ているとけじめがついていて素晴らしいと思います。	学校の対応	○地域でも子供たちが気持ちの良いあいさつができているということを聞いてうれしく思います。今後も継続できるように支援していきます。 ○皆さんのおかげで、子供たちが育ってきていると思います。今後ともよろしくお願いいたします。 ○学校生活において、気になる言動があればその都度注意したり、子供たちに考えさせたりしています。御指摘の通り、学校教育全体で道徳的実践力を身につけさせていきます。 ○一生懸命に練習し、心身ともに鍛えた結果だと思います。温かいお言葉をありがとうございます。 ○走るのが苦手な生徒には「タイムの短縮（自己ベスト）」や「一定のペースで走り続けること」に焦点を当てた目標設定を行い、運動への嫌悪感を防ぎつつ体力を養っていきます。

4　健全育成の推進

規範意識の醸成	「決まり」や「マナー」を遵守し、自立心と規範意識のある児童生徒に育っている。 目標値：教職員、児童生徒の**約90%が肯定**	A	◇全体的におおむね良い評価となっている。特に、地域の方々が高く評価をしてくださっている。来校者にも気持ちの良い挨拶をほめていただくことがあるなど、良好な人間関係などを築く第一歩としての挨拶ができている。 ◆保護者の評価が「3」となっている。「決まり」や「マナー」に関しては、身に付いており実践でき良好な人間関係が築けていると評価している。しかし、「自立」という点で、足りないという気持ちがあるのではと考えられる。自分でできること、学校や家庭、地域にどのように貢献するかを考え、実践できる力の育成に努めていきたい。	教職員11	A	100%	60%	40%	0%	0%
				児童生徒12	A	100%	56%	44%	0%	0%
				保護者8	A	100%	0%	100%	0%	0%
				地域4	A	100%	67%	33%	0%	0%
		A	◇全体的におおむね良い評価となっている。前期と比べると、保護者の評価4が増えた。行事など、児童生徒の活動を見ていただく機会が多くなったことも関係していると推察される。 ◆教職員の評価が、前期から下がっている。より良く伝わる挨拶やマナーを身に付けさせたいという期待からの結果であると考えられる。令和8年4月から、全員が新しい環境でのスタートになるため、引き続き気持ちの良い挨拶や、相手の状況を考えた行動ができる児童生徒の育成に努めたい。	教職員11	A	100%	40%	60%	0%	0%
				児童生徒12	A	100%	67%	33%	0%	0%
				保護者8	A	100%	22%	78%	0%	0%
				地域4	A	100%	78%	22%	0%	0%
個に応じた指導の充実	児童生徒一人ひとりの教育的なニーズに応じて生活や学習上の困難の克服を目指した指導・支援に努めている。 目標値：教職員の**約90%が肯定**	A	◇児童生徒の学力や学習状況に応じた授業実践がおおむねできている。学習用端末などのデジタルとノートやプリントなどのアナログを、学習の場面で効果的に活用することを意識しながら、児童生徒の理解につなげられるよう努めている。また、今年度「MAXHUB」を使っての授業や校内研修を行うことで、より「分かりやすい授業」になるための取組も行った。 ◆今後も、「個別最適な支援」のために、各教科の児童生徒の学習状況を把握し、授業と家庭学習の効果的なつながりを研究していく。	教職員12	A	100%	40%	60%	0%	0%
		A	◇前期と同様の結果となった。引き続き、個別最適な指導、学習支援を行っていく。また、来年度からの学習環境の変化を踏まえ、教師ができる様々な支援の方法を探っていきたい。 ◆継続すること、積み上げていくこと、集中力など、児童生徒一人ひとりの特徴を理解し、少人数の強みを生かした支援に努めていく。	教職員12	A	100%	40%	60%	0%	0%
生徒指導の充実	教師は、児童生徒一人一人と教育相談などを通して悩みの把握に努め、いじめを絶対に許さない、見逃さない学校づくりに努めている。 目標値：教職員、保護者、地域住民の**約90%が肯定**	A	◇毎月の「ジブンミカタ」「なかよしアンケート」「学校生活アンケート」や、それを踏まえての教育相談や、支援と指導がきちんと実施されている。また、教育相談だけではなく、あゆみなどで児童生徒の悩みなどに寄り添うことを日頃から行っている。 ◆教職員と保護者の評価「3」が高い。「4」となるために、教育相談について改善や工夫をする必要があると感じられる。これまでの実践を積み重ねながら、より児童生徒理解につながる取組を検討していく。	教職員13	A	100%	20%	80%	0%	0%
				保護者11	A	100%	13%	88%	0%	0%
				地域5	A	100%	56%	44%	0%	0%
		A	◇後期も、毎月の各アンケート、教育相談、日々の日記指導を通して、児童生徒の気持ちに寄り添った生徒指導に努めてきた。特に、メディアの取材が多くあり、体力・精神的な負担を考慮しながら撮影やインタビューを実施した。 ◆いじめゼロの状況や、児童生徒が互いに協力しながら活動していることを、保護者や地域の方々に伝える機会を増やすことを検討していく。	教職員13	A	100%	40%	60%	0%	0%
				保護者11	A	100%	11%	89%	0%	0%
				地域5	A	100%	89%	11%	0%	0%

学校運営協議会委員の意見	〇児童生徒は健全に育っています。一人ひとりに応じた支援や指導が丁寧に行われているためと思います。小規模校に見られがちな「目の届きすぎ」で、子供の自立心を阻害することのないようにしたいですね。 〇子供同士の関係がよく健全に育っていると思います。 〇規範意識が育っていると思います。	学校の対応	〇御指摘の通り、教師が何もかもしてしまうと、子供たちの考える力が育たないと思います。少ないながらも子供たちに考えさせる場面を設定すると同時に、「自分で決める」ことが大切だと思います。来年度からは一本松小中学校に行くようになるので、考えて発言できる生徒を育成していきます。

5　安全・安心な教育環境の整備、教職員の資質・能力の向上

安心・安全な教育環境の整備と充実	学校は、災害等に対する安全教育の推進を行い、「自分の命は自分で守り切る」ことのできる児童生徒の育成に努めている。 目標値：教職員、児童生徒、保護者の**約90%が肯定**	A	◇どの項目においても、100%の肯定率であった。見守り隊や地域の方々からの情報や助言に応じて安全指導を行ったり、避難訓練を定期的に行ったりした結果だと言える。自分の命は自分で守ることができる指導を継続的に行わなければならないと考えている。 ◆今後も防災・減災活動や教育は、地域と共に進めていく。大地震が発生するとライフラインが寸断され、孤立状態になる可能性が高いので、そのような状況になったときでも生き抜くことができる教育と準備をしていく。また、土砂災害想定避難訓練や弾道ミサイルが発射された場合の対応訓練も定期的に行っていく。	教職員14	A	**100%**	80%	20%	0%	0%
				児童生徒11	A	**100%**	89%	11%	0%	0%
				地域6	A	**100%**	56%	44%	0%	0%
				保護者13	A	**100%**	38%	63%	0%	0%
		A	◇前期に引き続き、どの項目においても、100%の肯定率であった。防災参観日、定期的な避難訓練などの取組を実践し、その内容や様子を広く知らせることができた結果だと考える。 ◆今後も防災・減災活動や教育は、地域と共に進めていく。特に、「自分の命は自分で守る」という意識とそれを実行できる「判断力」を身に付けさせることができるようにしたい。	教職員14	A	**100%**	60%	40%	0%	0%
				児童生徒11	A	**100%**	78%	22%	0%	0%
				地域6	A	**100%**	56%	44%	0%	0%
				保護者13	A	**100%**	33%	67%	0%	0%
教職員としての資質と指導力の向上	学力向上、生徒指導等において研修や自己研鑽に努めている。 目標値：教職員の**約90%が肯定**	A	◇校内研修は、計画に沿って行っている。ICT機器のスキルアップ研修などの基礎的な研修を繰り返し実施しており、それらの研修が教職員が互いに学び合う良い機会となっている。教材研究などの自己研修を行う時間を適切に確保することが課題である。 ◆互いが実務を通じて指導していく方法や教職員間の対話を通じて自身が気付き、答えを見付けていく方法などを活用し、「報告・連絡・相談」できやすい体制づくりに努めていく。ICTスキルの高い者から学ぶ姿勢を全教職員が持つようにし、町ICT支援員の積極的な活用をしていく。	教職員15	A	**100%**	40%	60%	0%	0%
		A	◇2学期は、校内の研究授業や校外での研修に参加する機会が多く、それぞれが指導力向上に向けて、研修をすることができた。また、基礎・基本の定着や多様な表現活動を取り入れた学習の工夫をするために、教員同士で情報共有を積極的に行い、授業の改善に努めた。 ◆今後も、互いの強みを活かし、多様な視点からの研修を行う。また、小中合同校舎の特性を生かし、互いの授業を参観することで、新たな気付きを得られるように学び続けるようにする。	教職員15	A	**100%**	40%	60%	0%	0%

学校運営協議会委員の意見	〇安全教育は手抜きなく、よくなされている。 〇避難訓練、防災訓練、不審者訓練など様々な訓練を度々しているので、本当にすごいと思います。自分たちもできる限り参加して児童生徒と触れ合うようにしたいと思います。 〇児童生徒は、「自分の命は自分で守る」ことが身に付いてきていると思います。	学校の対応	〇災害はいつ起こるか分かりません。いつ起きても「自分の命は自分で守る」ことができるように繰り返し訓練していきます。特に中学生には、自分で判断して行動できる力を身に付けさせていきます。 〇様々な場面を想定した訓練をしていき、どんな場面にも対応できる子供たちを育てていきます。